



再歩

～にぎわい再び～

(株)ジェイ・ディー (常務取締役 たのうえまさかず 田上雅一さん)

行政区：惣領2町内

今回は、マットやモップなどのリース、オフィスの床やカーペット、エアコンなどのクリーニングを行っている株式会社ジェイ・ディーの田上さんに話を伺いました。

「前震の時は、実家にいたのですが、心配になって事務所兼倉庫に向かいました。建物は傾きつつも、何とか倉庫は持ちこたえていました。翌日、何とか営業できるよう片づけを行い、弟の自宅へ避難をしていたところ、本震に遭いました。

事務所兼倉庫は、本震により倒壊してしまい、工場も一部倒壊してしまいました。営業車、洗濯機は何とか無事でしたが、商品のマットとモップは建物の下敷きになってしまいました。

本当に目の前が真っ暗になりました。この先どうなるのか、不安で仕方ありませんでした。

住まいに戻れなかったため、しばらくはグランメッセ熊本で車中泊をしました。電気も水もない生活にとっても苦労していたのを覚えています。携帯電話を充電するにも、車でするしかなく、取引先や従業員と連絡が取りづらかったことも、印象に残っています。

余震が続く中、事務所の片づけを始めると、自分の家も大変な状況であるにもかかわらず、従業員が自主的に出社し、隙間から少しでも商品を引き出すとするなど、一生懸命片づけをしてくれ、感謝があります。また、報道を見た他県の同業者から

心配していただき、励ましの電話が鳴りっぱなしでした。道も悪い中、朝早くから物資を持ってきていただいたりして、感謝、感謝、感謝でした。

ライフラインも復旧していないので、どうしていいか分からずいた時、ある同業者から「お客さんが減らないようにすぐに動いた方がいい」とアドバイスをもらいました。ただ、商品が無いので、まずお客さんにハガキで、震災の状況を伝えました。

発災後1週間が経ち、交換する商品がないので仕事もできず、それでも何かしようということで、お客さんの所

『人とのつながりや、

全ての人に感謝』

を手分けして個別訪問しました。訪問先では、会社が倒壊したのを知っていた人が多く、逆に心配していただいたり、米や弁当などを頂くなど、改めて人の温かみを感じました。

倒壊した倉庫から何とか商品を引き出したものの、とても足りない状況に頭を抱えていましたが、全国各地の同業者から商品をお貸しいただき、何とか商品をそろえることができました。

ただ、工場については、機械は動かせるものの、水も電気も使えなかったので稼働できず、またも頭を抱えることになりました。

そんな中、益城町の状況を心配した

同業者の社長のご厚意で、空き時間に商品を洗っていただくこととなり、早朝から夜遅くまで洗濯をしていただきました。

そのお陰で、発災から2週間後には少しずつ業務を開始することができました。

交換業務で回っていると、「あんなにひどかったのに、もう仕事ができるようになったのですか?」と、気遣っていただき、従業員一同やる気に満ちていました。

5月には知り合いの紹介により、みなし仮設の入居が可能となり、何もかも買いそろえなければならなかったものの、住居も確保することができました。

仕事に関しても、震災直後は不安なままスタートしましたが、皆さまのご支援の甲斐あって、早々に再開でき、取引先への対応を早急に行ったことで契約解除もなく、今では震災前と変わらない状態になりました。

震災で水に苦労した経験を生かして、現在は新事業の浄水サーバーをお客さまに提案しています。新事業に挑戦し、この震災で教わった人とのつながりや、全ての人に感謝して町を盛り上げていきたいと思っています」

産業振興課 商工観光係
☎ 286-3277